

科目名		プログラミング論ⅡB(ProgrammingⅡB)							
学年	学科(コース)	単位数		必修/選択	授業形態	開講時期	総時間数		
第3学年	経営情報学科	履修	1単位	—	講義	後期 90分/週	30時間		
担当教員		【常勤】内田 保雄, 二木 映子							
学習到達目標									
科目の到達目標レベル	<p>プログラミング論ⅡAで習得したプログラミング能力を基礎として、Java言語の基本的な文法や操作方法について学習を進め、プログラマが修得すべき基本的なプログラミング能力を確実なものとしていく。そのためまず、今日のプログラマの必須知識であるオブジェクト指向の概念を理解するとともに実際のプログラミング技法について学ぶことが目的である。</p> <p>Javaの基本的な文法を理解し、Javaの開発環境が利用でき、オブジェクト指向に基づく基本的なJavaプログラムを作成できるようになるのが到達レベルである。</p>								
学習・教育目標	(B)	JABEE基準1(2)							
関連科目, 教科書および補助教材									
関連科目	プログラミング論Ⅰ、プログラミング演習Ⅰ、プログラミング論ⅡA								
教科書	「明快入門Java」林晴比古著(ソフトバンク)								
補助教材等	Webで補足資料を提示する。								
達成度評価(%)									
評価方法 指標と評価割合	中間試験	期末・学年末試験	小テスト	レポート	口頭発表	成果品	ポートフォリオ	その他	合計
	総合評価割合	50	50						100
知識の基本的な理解 【知識・記憶、理解レベル】	◎	◎							
思考・推論・創造への適用力 【適用、分析レベル】	○	○							
汎用的技能 【論理的思考力】		○							
態度・志向性(人間力) 【 】									
総合的な学習経験と創造的思考力 【 】									
学習上の留意点および学習上の助言									
<p>情報システム全般の知識が必要である。            重要な事項について練習問題を課す。練習問題を解くことで、自身の理解度を把握する。            プログラムを丸暗記するのではなく、処理の仕組みを理解することが重要である。            Java言語のリファレンスマニュアルを読み解くことが理解の手助けとなる。</p>									

授業の明細			
回	授業内容	到達目標	自学自習の内容 (予習・復習)
1	ガイダンス オブジェクト指向の概念	・シラバスから学習の意義、授業の進め方、評価方法を理解できる。 ・オブジェクト指向の概念を理解し、説明できる。	第1回で取り上げた内容の復習を行ない、次の演習に備える。
2	クラス(1)	・クラス概念を理解し、説明できる。	第2回で取り上げた内容の復習を行ない、次の演習に備える。
3	クラス(2)	・クラスを用いたプログラムを作成できる。	第3回で取り上げた内容の復習を行ない、次の演習に備える。
4	継承(1)	・継承の概念を理解し、説明できる。	第4回で取り上げた内容の復習を行ない、次の演習に備える。
5	継承(2)	・継承を用いたプログラムを作成できる。	第5回で取り上げた内容の復習を行ない、次の演習に備える。
6	インタフェース(1)	・インタフェースの概念を理解し、説明できる。	第6回で取り上げた内容の復習を行ない、次の演習に備える。
7	インタフェース(2)	・インタフェースを用いたプログラムを作成できる。	第1回～第7回で取り上げた内容の復習を行ない、試験に備える。
8	<b>中間試験</b>		
9	試験返却・解答解説 インタフェースとクラス(1)	・試験問題の解説を通じて間違った箇所を理解できる。 ・インタフェースとクラスの間接関係を理解し、説明できる。	第9回で取り上げた内容の復習を行ない、次の演習に備える。
10	インタフェースとクラス(2)	・インタフェースとクラスを組み合わせたプログラムを作成できる。	第10回で取り上げた内容の復習を行ない、次の演習に備える。
11	パッケージ(1)	・パッケージについて理解し、説明できる。	第11回で取り上げた内容の復習を行ない、次の演習に備える。
12	パッケージ(2)	・パッケージを用いたプログラムを作成できる。	第12回で取り上げた内容の復習を行ない、次の演習に備える。
13	例外処理(1)	・例外処理について理解し、説明できる。	第13回で取り上げた内容の復習を行ない、次の演習に備える。
14	例外処理(2)	・例外処理を用いたプログラムを作成できる。	第1回～第14回で取り上げた内容の復習を行ない、試験に備える。
	<b>期末試験</b>		
15	答案返却・解答解説 全体の学習事項のまとめ 授業改善アンケートの実施	・試験問題の解説を通じて間違った箇所を理解できる。	
<b>総授業時間数</b>			30 時間